

【中学校・2年・社会・「開国と幕府政治の終わり」】

C2 (協働での意見整理)

育成を目指す資質・能力

幕府が開国を決断した理由について、考察したり、仲間と意見交換をしたりする中で、自分の意見を説明することができる。

ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】 ホワイトボードソフト 表計算ソフト

- ・ホワイトボードソフトを活用し、班ごとに討論し、徳川慶喜が大政奉還を決断した理由に迫る。
- ・単元の課題を解決するため、表計算ソフトを活用し、学習の積み重ねを行う。

学習の流れ

幕末の日本と世界の状況を理解する。

幕府の考え方の転換について考える。

徳川慶喜が大政奉還を決断した理由について考える。

単元の学習課題について、個人で意見を作る。

事例の概要

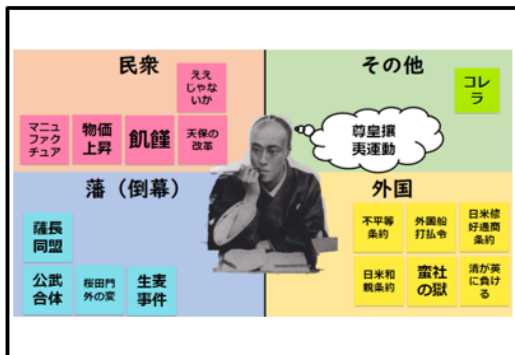
ペリー来航の翌年、日米和親条約が締結された。その時、態度を決めかねた幕府は、朝廷に報告し、初めて大名などに意見を求めた。幕府は開国賛成派が少ないにもかかわらず、開国の決断を下した。本実践では、この一見矛盾しているような幕府の判断について、当時の様々な立場の人々の意見を考えながら、根拠を明らかにしていく活動を行った。

ホワイトボードソフトを活用した場面では、付箋を用いた話し合いがしやすかった。パソコンの画面で意見を集約しつつ、班ごとに話し合った。また、班で集約した意見は学級でも説明し合い、学級全体での意見交換を行った。

さらに、単元の課題「260年続いた江戸幕府を滅亡させた一番の理由は何か」を解決するため、表計算ソフトを活用し、学習の積み重ね(振り返り)を行った。

【中学校・2年・社会・「開国と幕府政治の終わり」】

【事例におけるICT活用の場面①】



ICT活用のポイント

ICTを用いて、活発な意見交換と意見集約の活動を行った。4つの視点から「徳川慶喜が大政奉還を決断した理由」を考察し、最終的な決め手となった事柄を選択するという活動である。今まで学んだことを基に、大政奉還に至るまでの慶喜の苦悩を追いながら、班ごとに様々な考えを出すことができたと思う。

【事例におけるICT活用の場面②】

学びの地図			
単元の学習課題			
江戸幕府は260年も続いたのに、なぜ、ペリー来航から14年で滅びたのか？			
単元の学習課題に対する自分の仮説			
徳川慶喜がペリーに開国しろと書かれて、開国したときの日本のトップは自分ではなく天皇だと考えたから。			
各授業時限の学習課題(あてて)について、それぞれの観点で「大切なと思うこと」をまとめていく。(空欄になることもあるよ)			
1時限目	外国と幕府	幕府	民衆と幕府
「内」と「外」の危機とは何か？	外国船打私令を出して、外国船を全て排除した。	長州藩と薩長藩が改革に成功して幕府になった。	民衆に頼む人が増え、都市に働きに行く人が増えたことで幕府への改革が幕府の改革をするが不利。
単元の学習課題に対する最終仮説			
開国しろと書かれたことで幕府は最終的に開国は考えなかったが、最終的に開国しようという考えに至った。日本は日本知識階級を頼りに開国したんだと思う。また、15代将軍の慶喜が外国と対決していくのに国をひとつに統一させたほうがいいと考えたことで、大政奉還が行われ江戸幕府が滅びた。			

さらに、単元としては、「260年つづいた江戸幕府を滅亡させた一番の理由は何か」を考えた。この単元の課題を解決するために、表計算ソフトを活用し、学習の積み重ねを行った。

ICT活用事例 C2（協働での意見整理）

中学校2年・社会科 歴史分野 「開国と幕府政治の終わり」

使用機器：1人1台端末
大型テレビ

使用アプリ：ホワイトボードソフト
表計算ソフト

〈ICT活用のポイント〉

- ①ホワイトボードソフトを使用し、班で話し合う。1人1台端末によって、意見交流と記録が同時にできるので活発な話し合い活動になる。
- ②単元を通して、書く授業ごとのまとめを表計算ソフトに記入する。これによって単元を貫く問いに迫ることができる。

1 単元の目標

- ・欧米諸国のアジア進出と関連付け、幕府が外交政策を転換して開国したこと、その政治的及び社会的な影響と明治維新の動きを生み出したことを理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・開国とその影響に関わる事象の意味や意義に着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・開国とその影響について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・欧米諸国のアジア進出と関連付け、幕府が対外政策を転換して開国したことを理解している。・図や資料を読み取り、日本の開国とその影響に関する社会的事象について、適切に表現することができる。	<ul style="list-style-type: none">・日本の開国とその影響について、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察、表現することができる。	<ul style="list-style-type: none">・日本の開国とその影響が、明治維新の動きを生み出したことを主体的に追究しようとしている。

3 教材について

この中項目C(1)では、欧米諸国の近代化とアジアの植民地化の進行、日本の近代化による議会政治や経済の発展と第二次世界大戦までの戦争の激化を対象としている。専制政治への反発と人権意識の高揚と啓蒙、産業革命による経済の発展によって欧米諸国は近代化を果たした。これによる経済の膨張によって、市場と原料供給地としてのアジア侵略が激化するのが近代であ

る。この欧米諸国の近代化と世界進出が、近世の武士社会であった日本にも大きな変化をもたらす嚆矢となった。比較的安定し、平和な時代を作り上げた江戸幕府は、ペリーの来航から14年で大政奉還を行い、滅亡までに至る。これ以降は日本も近代化し、列強と呼ばれるまでに経済力をつけていく。本単元では、その外国船の来航から江戸幕府滅亡までの短期間に発生した国内の変化を扱っている。外国船の来航を経て、経済的な混乱や思想の変化、病気や天変地異など江戸幕府の滅亡までには様々な要因が複雑に絡み合い、大政奉還という社会事象に結実している。本教材は、江戸幕府の滅亡という歴史の転換点を、世界との動きと日本の変化を関連させながら、多面的・多角的に考察することができる教材である。

4 指導と評価の計画（5時間） ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第一 次	◇（学習活動の概要）小学校での既習事項を確認し、ペリーの来航から14年で江戸幕府が滅亡することについて考え、学習課題を立てる。 問（単元の主発問）「約260年も幕府は続いたのに、なぜペリーの来航から14年で滅亡してしまったのか。」この問いに対する仮説を立ててみよう。			●	●幕府が260年も続いた理由を、小学校での既習事項をもとに予想している。 （学びの地図）
第二 次	◇幕末における諸外国の侵入と国内の変化に対する幕府の対応を理解する。 問（本時の問い）数々の危機に対して、幕府と藩はどのように対応したのか。	○			
第三 次	◇幕府が開国を選んだ理由と、そこからわかる幕府の弱体化について小グループでの話し合いを通して考察する。 問なぜ、幕府は「開国」をしたのか。	●	●		●幕府が開国を選択した理由について多面的・多角的に考察している。（学びの地図）
第四 次	◇開国による日本国内の変化をとらえ、町人、藩主、将軍の観点から、どのような変化があったのかを話し合いから考察し、表現する。 問攘夷から倒幕へ考えが変わったのはなぜか。	●	●		●
第五 次	◇徳川慶喜の大政奉還の決断について、これまでの既習事項をもとに①社会の変化、②諸藩の動き、③対外関係、④その他の視点から多面的・多角的に考察し、小グループで話し合う。 問徳川慶喜に大政奉還を決意させた原因は何か。	●	●		●徳川慶喜が大政奉還を決断した背景について考察し、適切に表現している。

第六次	◇単元の課題について文章で表現し、まとめる。			○	○江戸幕府の滅亡について、単元の各授業をもとに学んだことをもとに、まとめ、多面的・多角的に単元の課題を考察し、表現する。
	問 約260年も幕府は続いたのに、なぜペリーの来航から14年で滅亡してしまったのか。				

5 本単元の1人1台端末の活用について

① グループワークに使用する表計算ソフト

グループワークのためのシート

本時の目標に対する予想		氏名	予想
まず、それぞれが学びの地図でまとめたことを共有してみよう!			
外国と幕府	藩(倒幕派)と幕府	民衆と幕府	

本授業では、4人グループを活動の集団の単位とする。表計算ソフトは、4人グループのワークシートとして使用する。以下には各項での生徒の活動について説明する。

単元のワークシート(個人ごと)で記入しているものをもとにして、4人グループでの共同編集を行い、各項の知識を共有する。

全体での意見交換を受けて、最終結論とする。ここでは、多角的多面的に徳川慶喜の判断の理由を考察しているかを読み取り、評価する。

★話し合いと発表をうけて、自分の最終結論を書いてみよう!

氏名	最終結論

② 単元を通して使用する表計算ソフト

学びの地図

単元の学習課題

単元の学習課題に対する自分の仮説

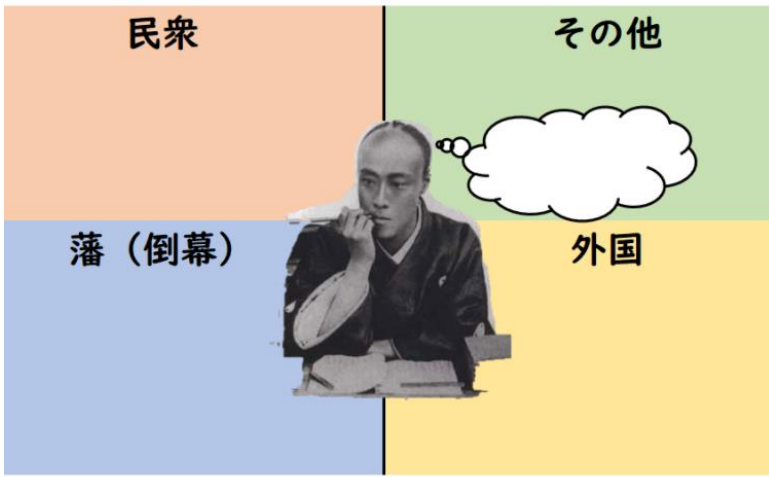
各授業時間の学習課題(めあて)について、それぞれの視点で「大切なと思うこと」をまとめていこう。(空欄になることもあるよ)

	外国と幕府	藩と幕府	民衆と幕府
1 時間目			
2 時間目			
3 時間目			
4 時間目			

単元の学習課題に対する最終回答

この表計算ソフトを用いて、単元を貫く問いについて思考する。毎授業の最後に「海外」「藩」「民衆」の視点について、江戸幕府に影響を与えたものを記入し、蓄積していく。その記入したことを上記の中段(それぞれが学びの地図でまとめたことを共有してみよう!)に貼り付けて、互いに確認し合う。

③ ホワイトボードソフト



ホワイトボードソフトでは、4人グループになり、「徳川慶喜が大政奉還を決断した理由」について考える。

上記の表計算ソフトを用いてまとめた各項の知識を基に意見を出す。その時には、「徳川慶喜が大政奉還を決断した理由」に関わることに焦点を当て、情報を精査することを意識する。

6 ICTの効果的な活用について

ホワイトボードソフトは、意見の打ち込みもしやすく、付箋の付け替えや移動も容易であるため、意見交換や意見形成の場面で効果を発揮する。本時の展開では、「徳川慶喜が大政奉還を決断した理由」について4人グループで話し合う活動を行う際に使用した。大政奉還という歴史の転換点を、国内の混乱や国外の圧力や国際関係の変化などの様々な視点から考えることで、多角的・多面的に思考することをねらった。

今回は、背景を四象限に分けた状態で意見を出させた。前時までの授業で学習したことを基に、意見を出している様子が見られた。江戸時代末の国内外の状況が混乱していたことを視覚的に理解することはできたと考えるが、「徳川慶喜が大政奉還を決断した理由」については、グループから出された意見から「選択する」ような班が多かったように思う。徳川慶喜がどのような背景から、どのように判断したのかを多角的・多面的に思考し、深めることは難しかった。意見の拡散から意見を深化させることには、もうひと工夫する必要があった。

1人1台端末を有効に活用し、授業や単元の目標を達成するためには適切な発問が必要になると考える。異なる1人1台端末を使用するだけでなく、発想を転換させるような発問によって、同じ1人1台端末でもその活用方法は異なってくる。適切な発問を吟味するなかで、1人1台端末やソフトのどんな機能を用いるかを検討することが必要であると思う。

